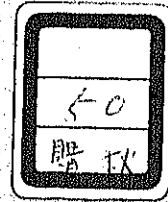


桑名十景歌

二
序

全



真山福叟書于水雲堂

桑名十景歌并序

金城初日

搏桑秀兮日杲也。金城湯池兮惟天造。朝暉
鳳舞兮國家保。

多度帰雲

群峯羅兮多度鎮。暮雲悠兮猶有依。飯去未
兮薇已肥。

補陀山櫻

寶陀尊兮我朝尊。花之花兮同一家。圓通
如是兮處之嘉。

東海風帆

遠帆掛兮水黏。浮家泛宅兮四海通。來往
却怪兮上下風。

郭外腰田

郭門外兮田。南由重糶。後ノコラ兮大有年。千倉

萬箱兮樂陶然。重糶詩經。糶ハニ申テ小文字ニ朱注ニ
先種テ後熟。曰重トヤハ俗トヤト云々
ノコラ重トヤハ又後種テ先熟ト云々糶トヤハ
ハ秘ハ大雅ニ未役トト申ルモ朱ニ並テ秀ハ自ニ云々

驛路松風

松夾道兮綠成陰。六月清風兮似鼓琴。行人

薄息兮披煩襟。

所屋長流

羨哉水兮日夜流。青羅帶長兮魚鳥遊。滌川

之切梁暨舟。

春浦明月

一輪月兮萬頃波。浮光清影兮珠新磨。西巖

漢氣兮鼓世歌。

遠山晴雪

宿雲開兮千峯白。月留花滿兮天咫尺。想像
遠山兮雪如席。

春 洞靈廟

金垣 兮 洞宮洞宮 兮 靈擊搏拊兮羞時食。條風
塊雨兮神之德。清淨 他字各音ケキ。ツケレ許域切清淨世詩

洞宮有一或作洞

隣曲之故時俗額室殿傳曰牛頭天主旋道
遠瀛暫躔者許天王者進雄尊也雍之祇園
也兩說不足徵孰能定于一蹄。

右借西村某以寫之

明治廿二己丑年九月十四日

秋山勝進書

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and difficult to decipher, but appears to be organized into several columns. Some legible fragments include characters such as 一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六, 十七, 十八, 十九, 二十, 二十一, 二十二, 二十三, 二十四, 二十五, 二十六, 二十七, 二十八, 二十九, 三十, 三十一, 三十二, 三十三, 三十四, 三十五, 三十六, 三十七, 三十八, 三十九, 四十, 四十一, 四十二, 四十三, 四十四, 四十五, 四十六, 四十七, 四十八, 四十九, 五十, 五十一, 五十二, 五十三, 五十四, 五十五, 五十六, 五十七, 五十八, 五十九, 六十, 六十一, 六十二, 六十三, 六十四, 六十五, 六十六, 六十七, 六十八, 六十九, 七十, 七十一, 七十二, 七十三, 七十四, 七十五, 七十六, 七十七, 七十八, 七十九, 八十, 八十一, 八十二, 八十三, 八十四, 八十五, 八十六, 八十七, 八十八, 八十九, 九十, 九十一, 九十二, 九十三, 九十四, 九十五, 九十六, 九十七, 九十八, 九十九, 一百.